

3年	単元名	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして「食べ物ひみつまき物」を書こう。
国語		

## 1. 単元の目標

- ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思 C(1)ア)
- ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思 B(1)ウ)
- ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。(知(2)イ)
- ◎相手意識をもって、事例を選んだり、その順番考えたりして、相手に分かりやすい文章を書こうとする態度をもつ。(学びに向かう力、人間性等)
- ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知(3)オ)

## 2. 学校図書館活用のポイント※目標との関連も踏まえて

- ・自分の作る「食べ物ひみつまき物」に必要な情報を集めることができる。
- ・集めた情報を分類することができる。

## 3. 児童について(略)

## 4. 単元計画(全 時間 本時 8/12 時間)

時	内容
1	○単元の導入(学習の見通しをもつ) ・給食のメニューからすがたが変わっていることに気づく。 ・教師のモデルをみたり、伝える相手を考えたりすることで学習のゴールを確認する。
2	○既習の学習「こまを楽しむ」から説明文の構成をおさえる。 ・文章が「はじめ」、「中」、「おわり」で分けられていることを思い出す。 ・「はじめ」、「中」、「おわり」がどういう働きをもっているのか確認する。
3	○「すがたをかえる大豆」で「はじめ」と「おわり」に書いてあることをおさえる。 ・前時を活かしながら、「おわり」に書かれている「まとめ」を見つける。 ・「はじめ」に中心の「問い」がないことに気づき、「中」から「問い」を考える。
4	○「中」にある例の書かれ方について考える。 ・自分ならどの順番にする。理由も考える。 ・筆者の並べ方を確認して、なかま分けをする。
5	○「中」にある例の書かれ方について考える。 ・どうして筆者がこの順番にしているのか、考える。 ・伝える相手に分かりやすく伝えるための工夫があることに気づく。
6	○情報の集め方と情報カードの書き方を学習する。 ・一枚に一つの情報を書くことと奥付について知る。
7	○「食べ物ひみつまき物」をつくるための情報を集め、整理する。 ・「食べ物ひみつまき物」に必要な情報が何か考える。

	・本を見ながら、何の食べ物にするのか決める。
8 (本時)	○「食べ物ひみつまき物」をつくるための情報を集め、整理する。 ・食べ方のひみつごとにまとめる。 ・どの順番で書くといいのか考える。
9～10	○「食べ物ひみつまき物」をつくる。 ・文章にして清書する。 ・誤字や脱字がないかペアでチェックをする。
11	○職員室の先生に作品を伝えに行く。

## 5. 本時について

### (1) 目標

食べ物のひみつについて本を用いて、情報を集めることができる。

### (2) 展開

	1、前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時の学習で、「食べ物ひみつまき物」に必要な情報を確認しておく。また、自分の「食べ物ひみつまき物」の食べ物を決めておく。本時は、自分の食べ物のひみつを探すことを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自分がえらんだ食べ物のひみつをあつめよう!</p> </div>	
	2、食べ物のひみつを集める。 ・本から「どんな食べ物にへんしんする」「どうやってへんしんする」のか探して、情報カードに書く。	○始めに情報カードを見せながら、全員で書き方を確認する。 ○見つけたひみつを書いた情報カードの情報不十分だと思った子には、机間指導の際に話しながら声掛けする。 ○ひみつの見つけ方に困っている児童には、机間指導の際にへんしん後の食べ物から、どうやってその食べ物にへんしんするのかききながら書く。 ☆食べ方の工夫について、必要な情報を本から集めている。【観察、ワークシート】
	3、ひみつの書く順番を決めよう。 ・書いた情報カードをなかまわけする。 ・どのような順番にしたら、読んだ人が分かりやすいのか情報カードを動かしながら考える。	○どんな並べ方をすると読んだ人が分かりやすいのか相手意識をもつように言葉がけをする。 ○すぐに決まった人には、机間指導の際にどうしてその順番にしたのか聞き、ペアで確認するときに自信をもって活動に向かえるようにする。
	4、ペアで順番を確認する。 ・自分がどうしてその順番にしたのか理由も伝える。	○ペアの話聞く際に、「なるほど」や「そうなんだ」といった反応をしたり、アドバイスをしたりするなど友達を助ける意識をもつように言葉がけをする。

<p>5、次回の学習への見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回から「食べ物ひみつまき物」の清書に入ることを確認する</li> </ul>	<p>○次回の見通しを持つことで、次回安心して学習に入ることができるようにする。</p>
--	--

## 6、成果や課題

今回、子どもたちに相手意識をもつこと、教材の「すがたをかえる大豆」を学習することの必要感を感じるよう課題を設定することに取り組んだ。導入の段階から、子どもたちにとって、巻物を他の先生に見せたいという気持ちが強く、どんな食べ物ひみつならびっくりするかな、と調べたい気持ちが高まっていた。同時に、何を調べたらいいのか、調べたことをどのようにまとめたらいいいのか、分からなくて、早く学習して自分たちの「食べ物ひみつまき物」を作るんだと単元を通して意欲的に学習に臨んだ。

自分の考えに自信のない子に対して、一緒に探したり、丁寧に話を聞きながら文を考えたりすることで、自信をもって学習に取り組むことができた。また、「自分がびっくりしたから教えたい」と発言する子がいたので、調べた情報の中から文に入れることを選ぶときにも先生たちの顔を思い浮かべながら作ることができた。

一方で、「ひみつ」という言葉があいまいだったので、子どもたちが調べるときに困ってしまったり、後で情報を選ぶときに何を根拠に入れるのか悩んだりした。言葉をより具体的にしていき、子どもが調べるときに困らない工夫が必要となった。また、食べ物によっては、同じ「粉を混ぜて焼く」という工夫でも温度や焼き方で別の食べ物となるときに、どのように変身の仕方に違いを出すのか、想定しきれていなかったため、子どもも情報カードの中身が同じようになってしまった。国語の学習なので、言葉を選定することで子どもたちが学習でめざす“めあて”を焦点化していくことが今後の課題となっていくと感じた。そして、そこに向けて授業の中で子どもの言葉に注目して聞いていき、達成感のあるものにしていく。

学校司書の先生と事前から話をするすることで、町の図書館からも本を借りていただき、子どもたちが一人一冊の本を使うことができた。また、調べ方も助けていただいたおかげで、子どもたちも安心して学習に臨むことができていた。学研の本は、分かりやすく見やすかったが、他の会社の本からも調べることができるように、調べ方や情報の書き方について学校図書館教育を通して学習していく必要があった。自分自身の今後の課題にしていきたいと感じた。

